

成果報告書

田中 朋子 (慶應義塾大学 政策・メディア研究科 後期博士課程 2年)

活動概要

名称：フランクリンメソッドに関する研究発表、会議、研究打ち合わせ参加

期間：2024年4月13日～21日

場所：タイ、プーケット島

目的：

- 1) フランクリンメソッドのアジア太平洋支部立ち上げに向けた研究会、会議、研究打ち合わせに参加し、メソッド創設者 E. Franklin 氏と各国から集まる実践家との国際的な意見交換を行うこと
- 2) 申請者のこれまでの身体教育実践と研究について発表し、演奏者を対象としたフランクリンメソッド教育プログラムの開発と各国での教育実践、効果検証に関する打ち合わせをすること

活動内容

申請者の研究テーマは演奏者の健康教育で、特にイメージを用いた身体教育についての研究と実践を行なっている。フランクリンメソッドは様々な視覚、聴覚イメージを用いて解剖の解説と運動指導を行う身体教育法で、これまでにダンサーの可動域拡大(Abraham. et al., 2019)、ジャンプ力の向上(Heiland et al., 2013)などの学習効果が報告されたほか、パーキンソン病患者のリハビリテーション法としての有用性も示唆されている(Abraham. et al., 2019)。申請者がフランクリンメソッドの介入研究に関する文献レビューを実施した結果、現時点での限界として1)効果検証がすべて米国で実施され、日本を含む他の文化圏での効果が不明である点、2)演奏者を対象とした定量的な効果の検証が未発表であるため、効果測定における評価方法の検討が必要である点、3)長期的効果の検証がさらに必要である点などが明らかになった。

本活動の主な内容はスイスに本部を置く Franklin Method Institute のアジア太平洋支部の立ち上げに向けた、研修、研究会、教育プログラム会議であった。本活動には、メソッド創始者の E. Franklin 氏と、日本、韓国、中国、シンガポール、タイ、オーストラリアの実践家が各国から1～2名ずつ参加し、今後のアジア太平洋地域のウェルビーイング推進に向けた意見交換を行った。タイ、プーケット島での共同生活を通じて、国際的なネットワーキングの機会が設けられた。日本からの参加者は申請者のみであった。

活動の具体的な内容は以下のとおりである。

- ・Franklin 氏による、指導者育成のための研修(4日間)

・演奏、ダンス、ピラティス、ウェイトリフティング、マニユアルセラピーなど多様なジャンルでの教育実践に関する研究発表及び意見交換（4日間）

・演奏者を対象とした身体教育プログラムの開発と各国での教育実践、効果検証に関する打ち合わせ（2日間）

研究発表では、申請者がこれまでに日本で実施した演奏者向け身体教育実践と、文献レビューの結果から明らかになった今後の研究課題について報告した。

活動の成果

世界各国のパフォーマーを対象に身体教育を約40年にわたり実践し続けている Franklin 氏のもとでの研修に参加し、これまでの実践に関する報告と意見交換を行い、今後の演奏者向け教育プログラムの開発に向けフィードバックを得る貴重な場となった。今回得た経験と知識を踏まえ、現在、声楽学習者を対象とした視覚イメージを用いた身体教育に関する研究を進めている。